

ご紹介：東京に用賀アーバンクリニックという、サロンみたいな診療所があります。イタリア風の椅子に座るとハーブティーが運ばれてきて、なんともエレガントな雰囲気です。診療所を出るときには、カルテがきれいに打ち出されて手渡され、自宅からパソコンで自分のカルテを見ることができます。技術的な最先端と洒落たインテリアが両立している、しかも、お金持ち相手ではなく庶民向け。この仕掛け人が皆さんの先輩の大石さんです。マッキンゼーというシンクタンクで身につけた腕をフルに発揮して日本の医療界に新風を巻き起こしておられます。詳しくはこちらを・・・↓

http://www.plata-net.com/network_clinique/yoga/yoga_PRNT.html



.*=*.:

トークから:

5年程前に高齢出産で子供を産んだのが、医療の世界とつきあうきっかけになりました。

すごい違和感があったんです。例えば、銀行だったらATMでお金を降ろす人とローンでお金借りに来る人って別の列に並ばせますよね。同じ列に並ばせると、平均的な待ち時間って必ず長くなる。だから、2列にわける。ところが、病院では風邪の人達と肺炎の人・肺がんの人・結核の人って全部同じ列に並んでる。銀行でもやれてるすごくシンプルな事がこの世界ではやられていないんだなってそんな感想を持ちました。

出産の1ヶ月前に大きな病院に転院させられ、紹介状もらったんですが、2行位しか書いてない。あんなにせつせとやった超音波の検査とか、あんなに抜かれた血とかはどうなったんだろうっていう空しさみたいな感じ。病院で、「来週来て下さい」って言われたんですけど、まだ出勤してたんで、「すみません、来週は大阪に行ってるので」って言ったらその女医さん、パシッとカルテを机の上に投げて、「じゃあいいわよ、あんた担当かわるけどいいわね」って言われてその態度にびっくり、その前にめちゃくちゃ怯えてたんです。分娩台で動けないとき意地悪されたらどうしようって、頭の中をよぎった。

マッキンゼーのコンサルタントだった時には、大会社の社長さん相手に結構、嫌われるようなこと言う場面があった。それでも怯えた事なかった。そのあたしですら怯えたんだから、20代半ばの専業主婦だったらもう泣き出しちゃいますよね。こういうような事が日常的に起こってるのかなっていう、そういう違和感がいっぱいあった。

現場の人の話を先ず聞いてみようと思って、30人か40人位のお医者さんの話を聞きました。わかった事は、みんな実は患者本位にしたいですけど、じゃあ誰が変えるわけっていうと、お医者さんは仕組みを変えるっていう事ができない、どうやっていいかもわからない。誰かがやるんだったら一緒にやってみたいと思ってるって言われるんです。

通産省と厚生省も付き合いがある人いたので、そこへも行って話を聞いた。非常によくわかる、でもモデルが必要なんだよって言われたんです。それで作ったのが用賀アーバンクリニックです。コンセプトは3つです。

